

卒業期少年の非行

家庭も社会もともに防止に
協力しましょう

卒業期を控えた少年は、進路と就職とを問わず、将来に対する期待と不安が入り混じり、精神的に不安定な状態におちいり、僅かな刺激や失敗がもとで非行にはいる例が多くあります。家庭でも、職場でも温かい理解と協力をもってこの転機を切り抜け、明

家庭の方に

▼少年の態度、行動をよく見守り、ふだんと変った行動をしたり、入学試験や就職試験に失敗しても、一途にそれ

職場の方に

▼つねに少年の心配ごと、悩みことの相談相手となり
▼不健全な場所への出入りや酒、タバコを無理にすすめたりしないよう
▼休日、余暇の過ごし方については健全なクリエーション

天幕とオルガンを寄付

松尾ライオンズクラブ

松尾ライオンズクラブは、去る一月二十二日横芝町の各学校へ、天幕二張とオルガン六台を寄贈されました。
横芝中学校へ 四米×六米天幕 二張
横芝小学校へ 電気オルガン 二台
上坪小学校へ 同右
大給小学校へ 同右
各学校では同クラブ員の芳志を心から感謝しながら、寄贈

ふる里の話題

大原幽学と横芝町(白)

○七月二十五日、出生して東金に至り、翌年二十六日屋形村千神(海保氏綱主)に至り性学数日。

○十月四日、屋形村に至り、五日清水村に至り、六日飯倉村に至り十日屋形村に帰る。

○天保八四年(一八三七)五月二十三日午前略中にも海保の姓沙村めしは、学びし事は即ち行い勤めらるるを、なを学び励しく、殊に博覧也故に多く爰に逗留しけり。時に八月に至りて長部村本蔵子の使として儀七、清吉の二人馬を引いて迎へに来る。僕一



大原幽学先生の肖像
(千瀧町教育委員会の好意による)

に寄せた信頼が察せられて當時が髣髴として来る。
○天保九年(一八三八)三月四日、三人の送りにて屋形村に帰りとう留。ある景物に、上総の国屋形の郷なる海保

五郎八主は命のあらむ限りを祖父と父母とに奉りてもと、孝の一つに心を極められしとなんこと。
母めし亦夫婦の其の孝の切なるを感じ其の志に随はれてさること只ならず。弟徳蔵め

末たのもしき事ぞとおもふと記し示す(この景物とは幽学が海保家一同の孝心と家人達の睦みあう事を賞して書き与へたもので、各所で善行を賞でて景物を出している。三月十七日も海保忠蔵に於て左の如き景物を与えている。)
○父母を養う花の心もて実を結ぶ末を樂しかりけり
(幽学はこの二十二日屋形村を立ち出て四月十一日には再び屋形村を訪れている。即ち性学日記の一節に)
○四月二日、出生し一宮に至り真光寺観明寺に遊び終、論談、景物左の通り、君達の誓へる誠の徳つまばその名は末の世にも残らん。
(是は屋形村海保、浅野其他

○前号でお断りしてあります通り、本稿は土屋栗水氏(本名源吾)の研究によるもので○印の部分は総て原文のままて扱っております。そのため原文の雰囲気を考えて文章形態を「である」「された」といった方式を探りました、尚本稿に出て来る「景物」とは引出物(ひきでもの)のことである、と筆者栗水氏から説明をいただきました。次号では屋形村里人の徳化親交等を中心とした事柄を掲載し完結とする予定です。

された品は大切に取扱って、児童生徒の教育訓練に役立てると言っています。
ライオンズクラブというのは、自由、知性、わが国民の安全の各頭文字から取った名称で、アメリカの有力実業家をメンバーとした奉仕団体であって国際協会の本部はシカゴ市にあり、日本では昭和二十七年支部を結成しました。
松尾ライオンズクラブは松尾、横芝、光の三町の会員で結成していますが、認証状伝達一周年を記念して前記寄付をされたもの。